

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	京都府京都市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	京都の文化遺産総合活性化事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>平成22年12月10日付で策定された、京都市基本計画（「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン」）の政策分野6（文化）及び京都文化芸術都市創生計画の基本方針を、本事業の基本的な理念・計画と位置付ける。基本的な理念・計画の期間は京都市基本計画は平成32年度、京都文化芸術都市創生計画は平成38年度までである。</p> <p>基本方針 くらしのなかに文化芸術がいきいきと息づき、ひとびとの豊かな感性が育まれるとともに、そこで生まれる活力やにぎわいが、まちの活性化につながることをめざして、文化芸術とまちづくりを一体化させた取組を促進する。このような取組を通じて、京都を魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生する。</p> <p>推進施策</p> <p>1 すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり (1) 多彩な文化芸術に親しみ、創造的な活動ができる環境づくり 地域ごとの特色あるくらしの文化が継承されるよう、京都の先人たちのくらしのなかから生み出され、受け継がれてきた文化に対する市民の関心と理解を深める取組を推進するとともに、地域の取組を支援する。 また、幅広い市民が世代を越えて多彩な文化芸術に気軽に親しむことができるよう、文化芸術の鑑賞、体験及び発表ができる機会を提供するとともに、文化芸術に関する市民の自主的な活動やボランティア活動を支援する。</p> <p>(2) 優れた文化芸術を通じた子どもたちの感性と表現力の向上 文化芸術に対する子どもたちの感性を磨き、表現力を高めるため、京都が有する豊かな文化芸術の資源や人材を生かし、学校、地域その他のさまざまな場において文化芸術に関する教育を推進するとともに、子どもたちが優れた文化芸術のほんものの輝きに触れる機会を充実する。</p> <p>(3) 文化芸術による魅力ある地域のまちづくりの推進 地域のくらしのなかに文化芸術がいきいきと息づき、そこで生まれる活力やにぎわいが地域の活性化に資するよう、文化芸術と地域のまちづくりとの連携を図るとともに、それぞれの地域の特性に応じた文化芸術に関する活動の場を提供するなど、京都ならではの文化芸術による魅力ある地域のまちづくりを地域住民との協働により推進する。</p> <p>2 歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援 (1) 伝統的な文化芸術の保存と継承 伝統芸能、伝統文化やこれを支える伝統工芸の技術を守り育て、継承していくために、次代を担う後継者の育成を支援するとともに、市民をはじめ広く国内外のひとびとが京都の伝統的な文化芸術を体験したり、身近に触れることができる機会を提供する。</p> <p>(2) 新たな文化芸術を創出する場づくりとひとづくり 京都で生まれた若い才能や京都が誇る重層的な人材が、個性豊かな文化芸術の活動を展開できるよう、京都芸術センターを中心として、芸術家・芸術関係者の育成や、芸術先品の制作・練習の場の提供等の支援を行う。 また、「大学のまち」や「ものづくり都市」の特性を生かして、学術研究や産業と文化芸術が相互に影響を与え、創造的な活動を新たに生み出す環境を整備する。</p> <p>3 世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上 (1) 文化芸術の交流の促進 国内外の芸術家の受入れや京都で活動する芸術家の国内外への派遣、文化芸術に関する国際的な催しの実施など、文化芸術に関する国内外の地域と市民や芸術家の交流を促進する。 また、歴史と現代が融合する京都の文化芸術に関して、国際的な関心と理解をより一層深めるため、京都の文化芸術に関する情報ネットワークを整備し、広く世界に向けて的確に京都の文化芸術の魅力を発信し、あわせて鑑賞や体験のための観光に活用する。</p> <p>(2) 文化芸術環境の向上 京都のまち全体を文化芸術の活動の場としてとらえ、その拠点施設として、京都会館、京都芸術センター、京都市美術館、京都コンサートホール、地域文化会館等が十分な役割を果たすよう、それぞれの文化施設の機能の充実を図る。 また、文化芸術に関するさまざまな活動を支える環境を整備するため、施設の運営に関して専門的な知識・技能を有する人材の確保と育成を図る。</p> <p>4 かけがえのない文化財の保護、活用と伝承 (1) 文化財の保護、活用 文化財としての価値を有しながら、十分に調査が行き届いていない有形無形の文化財の実態把握のために、大学等と連携して調査を行い、重要なものについては、市の指定・登録文化財として保護し、将来的には、国の指定・登録文化財をめざす。 日本の歴史や文化にとって、かけがえのないこれらの文化財を活用して、京都の魅力を広く国内外に知らせるとともに、さらに文化財保護の機運を高める。</p>			

(2) 文化財にかかわる多様な人材の育成
文化財を生かした地域ごとの特色あるまちづくりを進めるため、文化財保護に不可欠な専門的能力を有する技術者を、大学や研究機関等との連携により育成するとともに、地域において、専門的知識を生かして文化財の調査や保存・活用策の提案ができる人材や文化財の公開等の活用事業に携わるボランティアを育成する。

5 成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまち

(1) 暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む

人々が日々の暮らしの中に息づく文化を再認識して大切に継承するとともに、文化芸術に触れる機会を創出して人々の感受性を育み、市民の文化芸術活動がさかんな社会を目指す。

(2) 多様な文化が根付く暮らしの中から、最高水準の文化活動を花開かせる

文化芸術に満ち溢れた土壌から、伝統芸能や現代芸術など多様な分野において、世界で活躍する芸術家が育つまちを目指す。

(3) 京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する。

有形無形の文化芸術資源を活用し、観光・経済をはじめ、産業・学術・教育・福祉・まちづくり等、様々な関連分野への波及・融合を図ることにより、文化による新たな価値の創出を目指す。

(4) 様々な文化交流を推進し、京都の魅力を発信する

魅力あふれる京都の文化芸術を国内外に発信し、文化交流を推進するとともに、文化庁を迎える京都を国際的な交流の舞台とすることを旨とする。

上記を基本理念として踏まえつつ、京都の文化遺産総合活性化事業を実施する。

本事業は、次のような事業に区分される。

- 京都をつなぐ無形文化遺産普及啓発実行委員会／京都をつなぐ無形文化遺産普及啓発事業
- 公益財団法人 祇園祭山鉾連合会／祇園祭金工品調査成果活用事業
- 公益財団法人 祇園祭山鉾連合会／祇園祭の休み山「鷹山」の調査
- 京都市文化財マネージャー育成実行委員会／京都市文化財マネージャー（建造物）のスキルアップ事業
- 京都市文化資源活用実行委員会／京都市文化資源活用プロジェクト
- 鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用委員会／鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業
- 公益財団法人 有斐斎弘道館／江戸時代の京文化発信事業
- 一般財団法人 長谷川歴史・文化・交流の家／京都市文化遺産次世代活用事業
- 明日の今宮祭礼文化の会／今宮祭礼に関する歴史伝統文書の電子アーカイブ化と公開及び発信事業
- 中川村おこしの会／北山杉の里プロジェクト
- 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会／学校収蔵民具の再発見事業

6 実施体制

本事業については、京都市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。

担当課は、文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課である。

また、京都の文化遺産総合活性化事業の実施については、次の団体が実施する。

京都の文化遺産総合活性化実行委員会

委員長：土橋 聡憲（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財担当部長）

構成団体：京都をつなぐ無形文化遺産普及啓発実行委員会

公益財団法人 祇園祭山鉾連合会

京都市文化財マネージャー育成実行委員会

京都市文化資源活用実行委員会

鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用委員会

公益財団法人 有斐斎弘道館

一般財団法人 長谷川歴史・文化・交流の家

明日の今宮祭礼文化の会

中川村おこしの会

学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

7 実施計画における目標と期待される効果

別紙①のとおり

8 補助事業の概要

(1) 補助金額

～平成28年度交付決定額： 226,764 千円

平成29年度申請額： 32,877 千円

(2) 実施事業の概要

別紙②のとおり

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

1. 想定される効果

京都の先人たちの暮らしのなかから生み出され、受け継がれてきた文化に対する市民の関心と理解が深まり、地域ごとの特色ある暮らしの文化が継承される。また、日本の歴史や文化にとって、かけがえのないこれらの文化財を活用することにより、京都の魅力を広く国内外に知らされ、さらなる文化財保護の気運が高まる。

2. 効果の測定方法

市民アンケートによる総合評価や各申請団体による自己評価及び自主評価のほか、京都市独自制度としてテーマに基づく有形・無形の文化遺産を集合体として認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」を創設しており、市民からもテーマを公募していることから、同制度による認定件数を京都の文化遺産を守り、活かしていこうという気運の高まりをはかる指標とする。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）	
事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
歴史的風致維持向上計画について、平成21年度に認定	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	その他					
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	市民公募によるテーマから認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」の認定数			関連事業 :	①～⑱	
目標値 1 :	平成 28 年度		0 件	⇒	平成 33 年度 10 件	
設定根拠 1 :	京都市基本計画「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン」の目標値					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
4 件	6 件	8 件	10 件	10 件	件	
40%	60%	80%	100%	100%		
目標区分 2 :	その他					
評価指標区分 2 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	京都の文化遺産ホームページの閲覧数			関連事業 :	①～⑱	
目標値 2 :	平成 28 年度		6,000 PV	⇒	平成 33 年度 250,000 PV	
設定根拠 2 :	京都市事務事業評価の目標値					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
PV	PV	PV	PV	PV	PV	

事業⑦：	伝統文化コーディネーター育成事業 講座「江戸時代の〈教養〉を考える」	実施団体：	公益財団法人 有斐斎弘道館
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	<p>文化の普及には演者と観客の間をとりもち、正しく文化を伝えていくコーディネーターの存在が不可欠である。実践的に学ぶ場の少ないコーディネーターの仕事を実際の事業の運営に立ち会いながら学ぶことで文化の継承・普及を担う人材を育成する。</p> <p>本事業は平成27年度より実施。毎月開催の講座「江戸時代の〈教養〉を考える」および年2回の謡奉納の実施を通して育成対象者自らも京都の伝統文化を学びながら、計画策定、出演者手配、参加者のとりまとめ、当日の運営・進行など実践的に学ぶ。近年、英語話者の参加も増加傾向にあるので、オリンピックも視野にいれながら、積極的に育成していきたい。</p>		
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	受講生の継続的な活動参加ならびにその広報活動による受講生増加/各所での関連事業への寄与		
目標値：	平成 28 年度	10 人	⇒ 平成 33 年度 20 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人
事業⑧：	北山杉の里ガイド育成	実施団体：	中川村おこしの会
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	<p>毎年春と秋に中川村おこしの会が主催する中川ガイドツアーへの参加者が増えているだけでなく、中川を訪れる観光客の団体からガイドを依頼されるような機会が増加しており北山杉の里をガイドできる人員が足りないという状況が生じている。また、近年、海外からの旅行客のガイドツアー参加希望が出てきているという中で、英語によるガイドの需要が生じている。</p> <p>そのため、本事業では、観光ガイドの講師を招へいし、北山杉の里の魅力を伝えることのできるガイドの育成並びにガイドのスキルアップ(英語によるガイド)を図ることを目的とする。(春2回、秋3回 計5回)</p>		
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	ツアーガイド講習終了者の後年度活動者数		
目標値：	平成 28 年度	0 人	⇒ 平成 33 年度 10 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人
事業⑨：	江戸時代の京文化発信事業 能あそび	実施団体：	公益財団法人 有斐斎弘道館
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	<p>講師に当時京の町人たちに謡を教えていた京観世五軒家より、今も唯一京に残る林家より林宗一郎氏を迎える。</p> <p>また、各ワークショップでは、その日取り上げる演目より特別にあつらえた和菓子を抹茶とともに提供する。茶道文化の一端に触れる機会も併せて提供し、蒔菓子はじめ、能楽がいかに関東の他の文化にも影響を与えていたかの一例として紹介する。</p>		
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	講座受講者の新規参加者数ならびに弘道館の事業全体の参加者数		
目標値：	平成 28 年度	300 名	⇒ 平成 33 年度 350 名
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
名	名	名	名

事業⑬：	学校収蔵民具の紹介展及び講演会					実施団体：	学校収蔵民具の再発見事業実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度				
事業概要：	<p>京都市内の小学校（166校）を中心に、統廃合された元学校も含め、地域の小学校で収蔵されている民具およびその収蔵・活用の状況について、平成29年～31年の3ヵ年かけて、順次、紹介するパネル展示を行う（巡回展）。過年に左京区役所の事業で小学校が所蔵する民具の調査研究を担当された京都造形芸術大学の伊達仁美教授に講演を行っていただく。</p>										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	京都市学校歴史博物館の来館者数										
目標値：	平成 27 年度		26,234 人		⇒		平成 33 年度		30,000 人		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
人	人	人	人	人	人						
事業⑭：	鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業					実施団体：	鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 29 年度				
事業概要：	<p>平成28年度からの継続事業として、京都市東山区の旧家に伝来する「今村家文書」など、鴨川・高瀬川地域を中心とする歴史遺産の調査・研究をさらに進め、その成果をもとに、市民を対象として普及・啓発に取り組む。具体的には、昨年度につづき、市民向けの歴史講座・シンポジウムを開催し、当該文化財の調査・研究の成果を広く一般に普及する目的で取り組みを進める。</p>										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	文化財に対する意識の変化（アンケート調査）										
目標値：	平成 28 年度		未実施 %		⇒		平成 33 年度		75 %		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
%	%	%	%	%	%						
事業⑮：	来て、見て、知って北山杉の「本仕込み」					実施団体：	中川村おこしの会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	<p>現在は、山で切り出した木は、加工場で皮をむき機械乾燥されるが、中川においては、かつて本仕込みという乾燥技法が行われていた。これは山で皮をむき、むいた木を互いにもたれかせて、立たせたまま乾燥させるという伝統的な技術である。天候に左右される方法であるため、現在では行われない。この方法で乾燥された木肌は、機械による強制乾燥とはまた違った風合いを醸し出す。天候や、木の水分摂取の具合など、自然を読む知恵が必要で、そうした伝統技術を実験することで、北山杉の魅力を普及啓発する。情報発信事業で作成したリーフレットは、本イベントにおいても配布する。</p>										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	自主事業による「仕込み」の展示、体験ワークショップの開催										
目標値：	平成 28 年度		0 回		⇒		平成 33 年度		3 回		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
回	回	回	回	回	回						

事業⑯:	①古書籍・古文書の整理・編集事業、②古文書の編集・現代語訳事業	実施団体:	一般財団法人 長谷川歴史・文化・交流の家			
事業区分:	調査研究	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度			
事業概要:	①古書籍の整理・編集作業を継続するとともに、それらの分類(分野別・著者別)作業を行う。また、②古文書の整理・編集作業を継続するとともに、一部その現代語訳を行う。					
評価指標区分:	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	(具体的な指標を記載してください。)					
目標値:	平成	年度	(単位)	⇒	平成 33 年度	(単位)
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	
事業⑰:	金工品調査の集成・総合研究および関連文書の調査	実施団体:	公益財団法人 祇園祭山鉾連合会			
事業区分:	調査研究	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 29 年度			
事業概要:	平成22年～平成26年度の金工品調査(10ヶ町)のデータ集成および総合研究, 関連文書の調査研究, 未調査分(6ヶ町)の追加調査研究 【参考1】平成22年～26年度の調査対象: 鶏鉾・鈴鹿山・函谷鉾・占出山・放下鉾・保昌山・橋弁慶山・鯉山・霰天神山・八幡山 【参考2】未調査につき追加調査研究対象: 大船鉾・南観音山・菊水鉾・螭螂山・四条傘鉾・綾傘鉾					
評価指標区分:	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	(具体的な指標を記載してください。)					
目標値:	平成	年度	(単位)	⇒	平成 33 年度	(単位)
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	
事業⑱:	祇園祭の休み山「鷹山」調査研究および報告書作成(平成28年度記録作成・調査研究事業: 祇園祭の休み山「鷹山」調査の継続事業)	実施団体:	公益財団法人 祇園祭山鉾連合会			
事業区分:	調査研究	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 29 年度			
事業概要:	平成28・29年度の2か年で、幕末以来の休み山である鷹山について、江戸時代の姿を調査事業を計画し、実施している。鷹山については、鷹山保存会が組織され、復興に向けて活動を始めているが、重要無形民俗文化財かつユネスコ無形文化遺産である京都祇園祭の山鉾行事に参加する以上、同行事の文化財としての質を落とさぬよう、復興の具体的な取り組みが始まる前に、まずは学術的な調査研究による報告書をまとめるのが目的である。 ・平成29年度 調査委員会および現地調査 5回(委員8名)、鷹山を描いた絵画資料の資料収集・調査、報告書の作成					
評価指標区分:	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	(具体的な指標を記載してください。)					
目標値:	平成	年度	(単位)	⇒	平成 33 年度	(単位)
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	

事業⑱：	京都をつなぐ無形文化遺産実態調査	実施団体：	京都をつなぐ無形文化遺産普及啓発実行委員会			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	○「地蔵盆」の実態調査の実施 地域における地蔵の所在調査，地蔵盆の実態調査を実施するとともに，結果を普及啓発に活用する。					
評価指標区分：	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	(具体的な指標を記載してください。)					
目標値：	平成	年度	(単位)	⇒	平成 33 年度	(単位)
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	